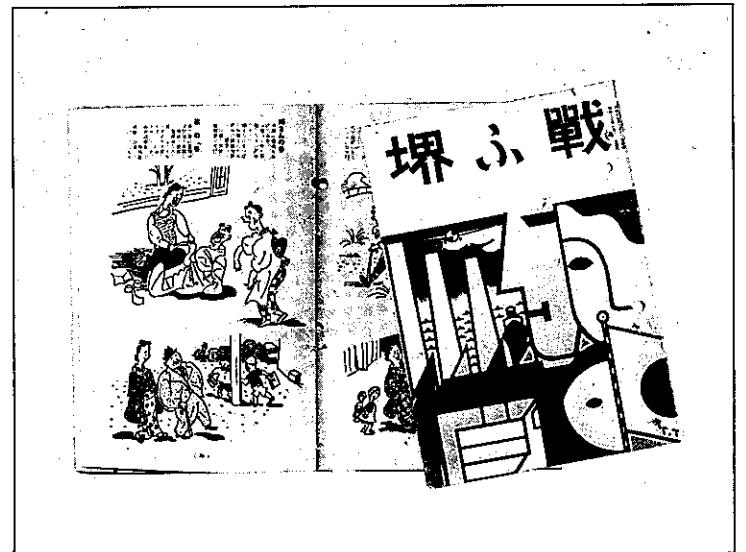


海軍志願兵検査 殿馬場国民学校における海軍志願兵検査を視察にきた牧田警備府長官。18年9月26日



慰問誌「戦ふ堺」 13年以降、市会の発案で中國や南方方面の郷土出身の将兵に向けて、堺芸術報国連盟の編集による慰問誌を発行することになり、数種類の慰問誌がつくられた。「銃後の堺」に続く2集目で17年6月発行（永代町・宇口一さん保存）



市役所戸籍兵事課 市役員も16年10月、勤務時間外に全職員が加入する報国団として、勤労奉仕をはじめ大政翼賛活動へ動員された。

また、廃休勤務、夜勤居残り等のため、体をこわし市民病院（現市立堺病院）で受療した職員だけでも全体の3分の1にものぼっていると新聞報道された。（写真は、19年に移転する直前の旧庁舎内）



学校工場 府立堺高等女学校（現泉陽高）も、他の学校と同様、19年春から校内が軍需工場化され、軍衣、双眼鏡など軍需品の生産加工に女生徒が従事させられた。



応召農家援護勤労奉仕 各校生徒が麦刈作業に出動。中等学校以上の諸学校は、軍事教練と勤労動員の場と化した。



学校工場 府立堺工業学校（現府立堺工業高）でも、「これまでの授業時限を一変して、工場と同様毎朝7時半から夕5時までぶつとおして行き、午前と午後1回休憩するだけで、普通授業はこの間まったく中止、焼玉エンジンの部分品の生産等に追われた。（19年）